

日本語とシンハラ語の肯定・否定応答の対照研究 —「はい」の機能に基いて—

ウィラシンハ ディリニ ハサンティカ

1. はじめに

本稿では、日本語母語話者とシンハラ語母語話者の会話に見られる肯定応答と否定応答の共通点と相違点を明らかにする。外国人のための日本語教科書では、「はい」「ええ」「いいえ」「いえ」等は初級段階のより早い時期に初出している。しかし、「はい」「ええ」は共に英語の「yes」の意味、「いいえ」「いえ」は英語「no」の意味を表すと説明しているが、それらの使い分けの特徴の説明まではなされていない。また、現在までの先行研究は「肯定応答」と「否定応答」に用いる「はい」「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」「いや」等の形式と意味分析に注目しており、各々の形式の機能と用法の説明は十分であるとは言えない。

そこで、本稿では日本語の肯定応答の「はい」「ええ」「うん」と否定応答の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」の使用とシンハラ語の肯定応答の「ou (はい)」「haa (はい、良いよ)」「hari (オーケー)」と否定応答の「nae:hehe(いいえ)」「bae:behe(できない)」「exaa (いや)」の使用について考察する。そして、それらの特徴を明らかにした上で、日本語の応答詞の特徴についても検討するのが本稿の目的である。

2. 先行研究

2.1 日本語の肯定応答の先行研究

「はい」と「ええ」について北川 (1977) は、「はい」は、「相手の言ったことがこちらにはっきり届いたということを敬意をもって表示する」のに対し、「ええ」は、「相手の言ったことに対して『自分もそのように思う』という自分の気持ちを表出する」と述べ、「自分もそう思う」と答えるのが不自然な場合「ええ」で応答することはできないと説明している。日向 (1979) は、「はい」「ええ」についての北川の定義を「はい」は「認知応答」と「ええ」は「同意応答」と名づけ、さらに考察している。「はい」は、談話場面の設立・維持に関与する一方で、「ええ」にはそのような機能はないとしている。また聞き手の気持ち・意向にそって依頼するような発話および質問文に対する応答としては、「はい」「ええ」「うん」が相手・場面等に応じて待遇的に使い分けられると述べている。北川 (1977) と日向 (1979) の「はい」「ええ」の意味分析は評価できるが、どういう場合に「はい」を使うか、そして、どういう場合に「ええ」を使うかという具体的な例文を挙げてない。

富樫 (2006) は、応答表現は肯定応答表現と否定応答表現とに大別され、日本語の肯定応答表現には「はい」「うん」「ええ」等の形式が用いられると述べている。また、二宮・金山 (2005) は、「はい」「ええ」の機能を「「はい」のみが使える場合」「「はい」のみが使えるが「ええ」の可能性がゼロではないが不自然な場合」「「はい」「ええ」共に使

用可能な場合」という三つに分けて説明し、「はい」「ええ」の機能と効果について以下のように述べている。

- 「はい」の機能と効果：
- ・相手の情報を、敬意を持って受取ったというサインを示す。
 - ・情報提示の予告としてのサインとなりうる。
 - ・話者同士が共有する情報に格差があり、「情報の提供者」「受取り手」という関係を固定させる結果、話者間に距離が生じ、改まり度が増す。
- 「ええ」の機能と効果：
- ・相手に対する同意を示す。したがって先行文は、同意を示すのに十分な内容・意見を持った情報を伴うものでなければならない。
 - ・話者同士が情報を共有することにより、話者間の距離を縮め、親近感・同等感を示す。

2.2 日本語の否定応答の先行研究

ここでは、日本語の否定応答に関する先行研究を概説する。森山（1989）は、否定応答の分類を以下の通りに示している。

反対表明類：「いえ」「いや」「いやいや」「違う」

不同意類：「いやだ」「ことわる」「(だめだ)」

不可能類：「できない」「(だめだ)」

森山（1989）は、応答の用法の分類に注目しており、例えば、「いえ」と「いや」の差異の説明までは述べていない。田窪（1997）は、「いいえ」「いえ」「いや」の否定応答表現形式を感動詞・応答詞の機能的な分析の中で取り上げ、各々の形式の心的な機能に注目している点は評価できる。しかし、各々の形式の具体的な記述がなく、「承認の機能」「評価の先触れ」についての説明がない。土屋（2000）は、否定応答表現形式を「いいえ系感動詞」と呼び、そこに「いいえ」「いえ」「いや」の形式を含めており、各々の形式の機能の説明までは述べていない。中島（2001）は、否定応答詞には「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」などがあり、これらを「いいえ」系と呼んでいる。富樫（2006）では、否定応答表現には「いえ」「いいえ」「いや」等の形式が用いられ、聞き手に対しては「いえ」が「より丁寧」であり、「いや」が「非丁寧」と述べ、「いえ」「いいえ」「いや」の各形式の本質的機能を以下のように説明している。

「いいえ」の本質的機能：提示された情報そのものの整合性計算の結果、不整合となったことの標示

「いや」の本質的機能：提示された情報の整合性計算の結果、情報そのもの、あるいは情報提示行為に対して不整合となったことの標示

「いえ」の本質的機能：提示された情報そのものの整合性計算の結果、不整合となったことの標示。ただし提示行為の不整合性標示にも用いることができる

2.3 シンハラ語の肯定応答の先行研究

ここでは、シンハラ語の応答表現に関する先行研究を概説する。

Banks, Gair, De Silva (1968b) は、肯定応答として「*ou*」「*haa*」「*hari*」などがあり、「*haa*」は英語の「yes」又は「all right」の意味で、「*hari*」も同様であると述べている。また、「*haa*」「*hari*」は、「命令」又は「依頼」に対する肯定応答として一般的には使用され、「命令」「依頼」の質問以外では、肯定応答として「*ou* (yes)」を使用されるといっている。例えば、

- 例 A : *Bandaa, meheta enna* *haa, mahatthaya:*
 (Banda, come here.) (Yes, sir.)
- 例 B : *Bandaa kolaba yavava da?* *ou, mahatthaya: (yavava)*
 (Are you going to Colombo, Banda?) (Yes, I am (going), sir.)

Dissanayake (1992) は、肯定応答の「*ou*」は、英語の「yes」の意味で、否定応答の「*nae: nehe* (no)」の反意語であると述べている。例えば、

- 例 C : *oya: ingirisi dannavaada?*
 (Do you know English?)
- 肯定 : *ou, dannavaa* (yes, I know) (*ou*+肯定)
- 否定 : *nae:, dannae* (No, I don't know) (*nae:*+否定)

Amarasekara, Gunasena (2004) は、シンハラ語の肯定応答に用いる形式について、表1の通り示している。

表1：シンハラ語の肯定応答

肯定応答表現	日英語意味
<i>ou</i>	はい / yes
<i>haa</i>	はい / yes / all right
<i>hari</i>	はい / ok
<i>ehema/ehai</i>	はい / yes (敬意を表すため、僧侶に使用する。現在も使われている)
<i>yeheki</i>	はい / yes (現在使われていない。古いシンハラ語の言葉)

2.4 シンハラ語の否定応答の先行研究

ここでは、シンハラ語の否定応答に関する先行研究を概説する。

Dissanayake (1992) は、否定応答に用いる形式について、表2の通り示している。

表 2：シンハラ語の否定応答

否定応答表現	日英語意味
<i>nae:/nehe</i>	いいえ/no
<i>neme:</i>	ない/not
<i>bae:/bahe</i>	できない/can't
<i>epaa</i>	いや/no

Dissanayake (1992) は、「*nae:*」「*bae:*」は口語に使用され、「*nehe*」「*behe*」は文章語に使用されると述べている。また、*nae:/nehe* は、肯定応答表現の「*ou*」の反意語である。

3. 調査概要

本稿の 2 節でみるように、今までの研究は、「はい」「ええ」などの意味分析に注目しているが、どういう場合に「はい」を使うか、また、どういう場合に「ええ」を使うかという具体的な例文を挙げてない。また、「はい」か「ええ」か「いいえ」か「いえ」かなどの一つか二つの形式に注目しているだけで、肯定応答の「はい」「ええ」「うん」と否定応答の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」という応答詞の全体を比較した研究はほとんど見当たらない。

本稿では、日本語の肯定応答と否定応答という応答全体を対象に分析し、シンハラ語の肯定応答と否定応答と比較しながら考察していく。

本調査では、北川 (1977)、日向 (1979)、富樫 (2002)、二宮・金山 (2005) などの先行研究の「はい」の機能の説明と用例を参照した。それらの先行研究の「はい」の機能に基づいて、同様な場合の日本語とシンハラ語の肯定と否定応答の使用と比較した。先行研究で参照した用例以外の用例は日本語教室現場で普段聞く自然会話を基にして筆者が作成したものである。

4. 結果と考察

4.1 肯定応答と否定応答の使用の比較

北川 (1977)、日向 (1979)、富樫 (2002)、二宮・金山 (2005) などの先行研究の「はい」の機能に基づいて、同様な場合の「はい」「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」とシンハラ語の「*ou* (はい)」「*haa* (はい、良いよ)」「*hari* (オーケー)」「*nae:/nehe* (いいえ)」「*bae:/behe* (できない)」「*epaa* (いや)」の使用と比較した結果、表 3 のようにまとめることができた。

表3：日本語とシンハラ語の肯定・否定応答（詞）の使い分け

用法	肯定				否定						
	日本語		シンハラ語		日本語			シンハラ語			
	はい	ええ	うん	ou	haa	hari	いいえ	いえ	いや	ううん	epaa
① 真偽疑問文	○	○	○	○	×	×	○	○*	○*	○	×
② 確認	○	○	○	○	×	×	○	○*	○*	○	×
③ 許可を与える	○	○*	○*	×	○	○	×	×	○*	×	○
④ 依頼	○	○*	○*	×	○	○	×	×	×	×	×
⑤ 命令文	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
⑥ 話題転換	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
⑦ 情報提示	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
⑧ 打ち切り	○*	×	×	×	×	○*	×	×	×	×	×
⑨ 感嘆文	○*	○*	○*	×	×	×	×	×	×	×	×
⑩ あいづち	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
⑪ 聞き手に情報を求める	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑫ 拒否/断り	×	×	×	×	×	×	○*	○*	○*	○*	×
⑬ 物を渡す	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑭ 電話応答	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑮ 出席を取る	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑯ 呼びかけ	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
⑰ 注意喚起	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

表で使われている記号の意味は次の通りである。

○＝ 使える。 ○*＝応答詞のみで不自然。（「例：はい、そうです。」のように「はい」の後に後文が続かないと不自然である）。

△＝完全に間違いではないが不自然 ×＝使わない。

表3は、筆者が作成したものを更に20代と30代の日本語母語話者5人とシンハラ語母語話者5人に訂正していただいたものである。以下の4.2からは、表3の一つ一つの用法項目の日本語とシンハラ語の応答詞の使用について詳しく説明していく。

4.2 「真偽疑問文」

真偽疑問文とは、物事が真か偽か尋ねるための疑問文で、「はい」か「いいえ」で答えることができる。

例1: A:掃除は終わりましたか。(日向224)

B: はい。/ええ。/うん。/いいえ。/＊いえ。/＊いや。/ううん。

日向(1979)は、例1のような真偽疑問文に対する応答としては、「はい」「ええ」「うん」のいずれも使え、相手・場面等により待遇的に使い分けられると述べている。

筆者の調査によると、以上のような真偽疑問文に対する否定応答としては、「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」のいずれも使える。なお、「いえ」と「いや」を使う場合は、「いえ/いや、まだです」のように「いえ/いや」後に何か続かないと不自然である。

シンハラ語では、上記のような真偽疑問文に対する肯定応答としては、「ou (はい)」しか使用できない。シンハラ語では、質問者の質問に対しての情報が真であれば、「ou (はい)」という肯定応答をする。否定応答の「*nae:nehe*」を使う場合は、「*nae:nehe*」のみの応答でも可能であるが、「*nae:nehe, ta:ma iwara nehe* (いいえ、まだです)」のように「*nae:nehe*」の後に「まだ終わってない」ということも伝えるとより丁寧になる。

4.3 「確認」

ここでは、「確認文」の場合の以下の例を考察する。

例2: A:今日はスペイン料理ですね。(日向224)

B: はい。/ええ。/うん。/いいえ。/＊いえ。/＊いや。/ううん。

日向(1979)は、「ね」を伴う以上のような文の場面では、AB共に同じ情報を共有していることが前提となり、「ええ」が現れやすいと指摘し、確認文に対しては待遇的に「はい」「ええ」「うん」が使い分けられると述べている。

筆者の調査によると、以上のような「確認文」に対する否定応答として「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」のいずれも使えるが、「いえ」と「いや」を使う場合、「いえ/いや、今日は中華料理です」のように「いえ/いや」後に後文がないと不自然である。シンハラ語では、上記のような「確認文」に対する肯定応答としては、「ou (はい)」しか使用できない。この場合「*haa*」「*hari*」は、使用できない。「ou (はい)」は、相手の発話に対する聞き手の意見ではなく、相手の発話を肯定的に受け取ったという意味を表す。否定応答の場合は「*nae:nehe*」しか使用できない。

4.4 「許可を与える」

ここでは、「許可を与える」の場合の以下の例を考えてみる。

例3: A:あのう、ちょっと郵便局まで行ってきてもいいですか。

B:はい。／*ええ。／*うん。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／×ううん。

筆者自身のデータ考察によると、「許可を与える」の場合は、肯定応答詞の「はい」「ええ」「うん」のいずれも使える。なお、「ええ」と「うん」を使う場合は、「ええ/うん、良いですよ」のように「ええ/うん」の後に許可を与える表現が続かないと不自然である。否定応答の場合は、「いや」だけが使えるが、相当目上の人でないと使えない。その場合も「いや」だけの応答は不自然であり、「いや」の後に許可を与えない理由を示す表現などを加えることでより自然になる。

許可を与える場合、シンハラ語では、肯定応答として「*haa*(いいよ)」「*hari*(オーケー)」と否定応答の「*epaa*(いや)」が使える。「*haa*」「*hari*」は、フォーマルな場面にもインフォーマルな場面にも、また、目上にも目下にも使われている。なお、「*hari*」は、相手が疎遠な関係よりも親しい関係の時に多く使用される。また、「*epaa*(いや)」を使う場合は、「*epaa, den yanna epaa passe yanna*(いや、今ではなくて後にしてください)」のように、許可を与えない理由も伝えるとより自然になる。

この場合、日本語の否定応答の「いいえ」「いえ」「ううん」とシンハラ語の否定応答の「*nae:/hehe*」「*bae:/behe*」等は使えない。

4.5 「依頼」

「依頼」に対する例文として、以下の例を見てみよう。

例4: A:この書類を日本語に翻訳してもらえませんか。

B:はい。／*ええ。／*うん。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／×ううん。

筆者自身の調査では、「依頼」の場合、日本語の肯定応答詞の「はい」「ええ」「うん」のいずれも使える。しかし、「ええ」と「うん」を使う場合は、「ええ/うん、いいですよ」のように「ええ/うん」後に何かが続かないと不自然である。日本語の否定応答の使用については、母語話者一人が「いや、ちょっと無理です」のように目下に対しては使えると答えたが、残りの4人とも「いいえ、いえ、いや、ううん」等の直接的な否定応答を使わずに、他の間接的な断り表現を使ったほうがより自然だと答えた。

シンハラ語では、「依頼」に対する肯定応答として「*haa*(いいよ)」「*hari*(オーケー)」と否定応答の「*bae:/behe*(いいえ)」が使える。「*bae:/behe*(いいえ)」は親しくない目上の人には使えないが、それ以外の人には使える。

4.6 「命令文」

ここでは、「命令文」の場合の以下の例を考察してみる。

例5: A:ちょっと待ちな。(日向 225)

B: はい。／×ええ。／×うん。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／×ううん。

例6: (教師が学生に向かって)

A: もっとしっかりと勉強しなさい。(二宮・金山 (2005))

B: はい。／×ええ。／×うん。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／×ううん。

日向(1979)は、例5のような絶対的に命令する発話の応答には「ええ」は表れにくいと述べている。北川(1977)の説明から見ると、「ええ」を使うと自分に向けられた命令に対して「自分もそう思う」という意味になり、不自然である。二宮・金山 (2005)は例6の場合、「ええ」で応答すると、「もっと勉強しなさい」という情報がBにとって既知の情報となり、不適切であるだけでなく、場合によっては不遜な印象を与えることもあると述べている。この場合「うん」の使用も不自然である。

シンハラ語では、例 5、例 6 のような「命令」に対する肯定応答として「*haa*(いいよ)」「*hari*(オーケー)」と否定応答の「*bae/behe*(いいえ)」が使える。「*hari*(オーケー)」は相手が疎遠な関係よりも親しい関係の時にだけ使われる。また、「相手のその話をもうこれ以上聞きたくない、又は命令に対しての自分の嫌な気持ち」を表すために「*hari hari*」のように二回続けて言う場合もある。ここでは否定応答の「*bae/behe*(いいえ)」のみの応答でも可能だが、「*Behe, mata behe*(いいえ、できません)」のように「*bae/behe*(いいえ)」の後に「できないということを強調して言う」ことが多い。ただ、「*bae/bahe*(できない)」を使うと不遜な印象を与えるため、教師、社長のような相当目上に対しては使わない。命令文に対する応答として、日本語の否定応答の「いいえ」「いや」「ううん」とシンハラ語の否定応答の「*nae/nehe*(いいえ)」「*epaa*(いや)」と肯定応答の「*ou*(はい)」等は現れにくい。

4.7「話題転換」

「話題転換」の例 7 のような場合、日本語では肯定応答の「はい」、シンハラ語では肯定応答の「*hari*(オーケー)」しか使えない。「話題転換」の場合、日本語とシンハラ語の否定応答は現れにくい。

例7: A:こんにちは。皆さん元気ですか。今日は寒いですね。風邪をひかないように気をつけてね。 はい、では授業を始めましょう。／×ええ／×うん／×いいえ／×いえ／×いや／×ううん、では授業を始めましょう。

富樫 (2002)は例えば、「はい、授業を始めますよ。みなさん座って。」のようなトピックの冒頭の切れ目では「はい」だけが現れ、「うん」は非常に現れにくいと述べている。

4.8「情報提示」

ここでは、「情報提示」の場合の以下の例を考えてみる。

例8: (スポーツセンターの若いインストラクターが年配の社会人の客に使い方を説明している)

A:このレバーを使うと、椅子の高さが調節できます。(二宮・金山 (2005))

B:はい。／×ええ。／×うん。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／×ううん。

二宮・金山 (2005) は、例 8 は、A が B に対して使い方を説明する内容であり、A から B に一方的に情報が伝達するという状況で、A・B 間の情報の共有の度合いが低いいため、「はい」が適切だと述べている。そして、「ええ」を使うと B は既に A の提示した情報を知っているということになるため「ええ」が使えないとも述べている。筆者の調査に

よると、この場合「うん」と日本語とシンハラ語の否定応答の使用は、どちらも不適切である。例 8 の場合、シンハラ語では、肯定応答の「*hari*(オーケー)」しか使えない。また、応答詞を使わないで、「*aa* (ああ)」又は「*aa, hari* (ああ、オーケー)」のようにも使うことができる。

4.9 「打ち切り」

富樫 (2002) は、例 9 では、「はいはい」だけが現れ「うんうん」は現れにくいと述べている。

例 9 : A:僕がここまで成功したのはですね、実力と運が両方あったから... (富樫 153)

B:*はいはい、それはもう聞き飽きたよ。／×ええええ／×うんうん／×いいえ
／×いえ／×いや／×ううん、それはもう聞き飽きたよ。

筆者のデータでは、「打ち切り」の場合、日本語では、肯定応答の「はい」のみが使用でき、ある程度親しくない相手にしか使えない。また、少なくとも「はい」を「はいはい」のように二回続けて言い、その後に「それはもう聞き飽きたよ」のような「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉が必要である。シンハラ語も同様に肯定応答の「*hari*(オーケー)」のみが使用可能で、ある程度親しくない相手にしか使えない。また、少なくとも「*hari*」を「*hari hari*」のように二回続けて言い、その後に「もうこれ以上聞きたくない」という聞き手の気持ちを表す言葉も言う。

4.10 「感嘆文」

ここでは、「感嘆文」の場合の以下の例を考えてみる。

例 10 : A:わあ、きれいですね。

B:*はい／*ええ／*うん、そうですね。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／
×ううん。

「感嘆文+ね」は、相手に同意を求めるので、明らかに話し手が間違っていなければ「否定応答詞」で応答することができない。また、「わあ、きれいですね」は、あくまでも自分の感想であって、相手の同意を求めているので、「はい/ええ/うん、そうですね」のように「はい/ええ/うん」の後に同意を示す表現がないと不自然である。

シンハラ語でも上記のような相手の同意を求めているような場合は、「否定応答詞」で応答するのは不自然である。この場合、話し手の発話に対する同意を表す表現を使うのが一般的である。

4.11 「あいづち」

あいづちは相手の話を聞いていることを相手に示すものである。

例 11 : A:昨日さあ、(B:はい。／ええ。／うん。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／
×ううん。) A:学会に行ってきたさあ (B:はい。／ええ。／うん。／×いいえ。
／×いえ。／×いや。／×ううん。)

日本語では、あいづちは相手の話を聞いていることを示すため、否定応答が使いにくい。シンハラ語では、この場合肯定・否定応答は、いずれも用いられない。

4.12 「聞き手に情報を求める」

「聞き手に情報を求める」の場合の以下の例を考えてみる。

例12: A:私のかばんはどこですか。 (日向224)

B: △はい、あそこです。 / ×ええ。 / ×うん。 / ×いいえ。 / ×いえ。 /
×いや。 / ×ううん。

日向(1979)は、このような疑問詞を伴う質問文に対し、「はい」の代わりに「ええ」で応じるのは一般的ではないと述べている。しかし、筆者の調査では、このような場合「はい、あそこです」のように「はい」を使わないで情報だけを伝えるほうが、より自然だという結果が得られている。シンハラ語では、上記のような「どこ」などの疑問詞を伴う疑問文によって、聞き手に情報を求める場合には、肯定・否定応答で答えることができない。このような場合、質問に対しての情報の「あそこです」だけを伝えるのが一般的である。

4.13 「拒否/断り」

富樫(2006)は、「ありがとうございました」に対する答えとして「いえ/いいえ/いや、どういたしまして。」のように「いえ/いいえ/いや」のいずれも使えると述べ、「いいえ」の場合「いーえー」は「いー」が低く「えー」が高いイントネーションになると述べている。

例13: A:どうもありがとうございます。

B: ×はい。 / ×ええ。 / ×うん。 / *いいえ。 / *いえいえ。 / *いやいや。 /
*ううん。

例13の場合、筆者の調査では、否定応答しか用いられない。「いいえ」と「ううん」の場合は、「いいえ/ううん」の後に「大したことではないよ」のような表現が続く。「いえ」と「いや」の場合「いえいえ」「いやいや」のように少なくとも2回続けて使うと、後に続く表現がなくても、それだけで十分話者の意図を伝えることができる。拒否/断りの場合、シンハラ語では、肯定・否定応答は用いられない。

4.14 「物を渡す」

「はい、おみやげ」のような文例について日向(1979)は、「はい」は「どうぞ」や「さあ」に通じる積極的な機能を果たし、談話場面の設立・維持に関与する一方で、「ええ」にはこうした機能がないと指摘している。

例14: A: はい、プレゼント。 / ×ええ / ×うん / ×いいえ / ×いえ / ×いや / ×ううん、プレゼント。

二宮・金山(2006)は、「はい」は先行文を必要とせず、情報を持たない相手に対して一方的に情報を提示することができるが、「ええ」にはこのような一方的に情報を提示

する機能がないとし、「ええ」はあくまでも発話、つまり、何らかの情報に対する応答として現れると述べている。

例14の場合、シンハラ語では、肯定・否定応答は用いられない。この場合、シンハラ語では、「*menna, teggak. (here! a present)*」のように言う。「*menna*」は、話し手は「プレゼント」を相手の方に手渡ししながら言い、相手の注意を喚起したりするために使う。

「*menna*」は、日本語の「ほら」のような意味に近いが、大島(2001)によると、「ほら」は話し手が聞き手に何かを手渡す時によく用いられるが、「ほら」は、二人で何かが必要だと話し合った後に、相手が持っているところからも分かっている物を渡す様な場合に使われるという。そして、大島(2001)は、「はい」は、「お誕生日、おめでとう。はい、プレゼント」のように誕生日のプレゼントを渡すような前提に関して、無標の場合に現われると述べている。

4.15 「電話応答」

ここでは、「電話応答」の場合の以下の例を考えてみる。「電話応答」は上記の表3の「⑩呼びかけ」というカテゴリーに含まれているが、形式別の使用を詳しく示すため、別の項目として扱った。

例15: A: はい、もしもし。／×ええ／×うん／×いいえ／×いえ／×いや／×ううん、
もしもし。

筆者の調査による、「もしもし」の前には「はい」だけが用いられ、肯定応答の「ええ」「うん」と否定応答の「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」は用いられない。この場合、シンハラ語では肯定・否定応答は用いられない。

4.16 「出席を取る」

「出席を取る」は上記の表3の「⑩呼びかけ」というカテゴリーに含まれているが、形式別の使用を詳しく示すため、別の項目にした。日向(1979)、富樫(2002)、二宮・金山(2005)などの先行研究では、以下のような文例では肯定応答の「はい」しか使えないと述べている。

例: 16 「教室で先生が出席をとっている」

A: 山田くん。

B: はい。／×ええ。／×うん。／×いいえ。／×いえ。／×いや。／×ううん。

シンハラ語では上記のような場合、肯定と否定応答は使われない。この場合、シンハラ語では「いるかいなか、又は出席か欠席か」に注目し、いる場合は、「*innawa:* (います)」と応答する。又は手を上げるか英語の「*present/absent*」で応答する。出席をとる場合、日本語のように「*ou* (はい)」は用いられないが、話し手から聞き手に対し、「山田さんですか」というように名前を確認するような場合には、「*ou* (はい)」を使用することができる。しかし、この場合、「命令」又は「依頼」に対する肯定応答の「*haa* (いいよ)」、「*hari* (オーケー)」は使えない。

4.17「呼びかけ」

日向 (1979)、二宮・金山 (2005) などの先行研究では、以下の文例のような、前の文が呼びかけ語からのみ成り立つ場合、「はい」しか使えないと述べている。

例 17: A(訪問者)すみません。

B: はい。/×ええ。/×うん。/×いいえ。/×いえ。/×いや。/×ううん。

この場合、シンハラ語では、肯定・否定応答は使わない。

4.18「注意喚起」

ここでは、「注意喚起」の場合の以下の例を考えてみる。

例 18: A: はい、こっちを見てください。/×ええ/×うん/×いいえ/×いえ/×いや/×ううん、こっちを見てください。

「注意喚起」では、肯定応答の「はい」しか使えない。シンハラ語では、この場合肯定・否定応答は使わない。

5. まとめと今後の課題

以上、先行研究の「はい」の機能に基づいて、同様の場面での「はい」「ええ」「うん」「いいえ」「いえ」「いや」「ううん」と、シンハラ語の「ou (はい)」「haa (はい、良いよ)」「hari (オーケー)」「nae:/nehe(いいえ)」「bae:/behe(できない)」「epaa(いや)」の使用について考察した。これによって、日本語とシンハラ語の肯定・否定応答の用法と機能の特徴が分かった。

日本語の否定応答の「いいえ/いえ/いや/ううん」の使用状況を見ると「いえ」と「いや」を使う場合、「いえ/いや」のみの応答は不自然で、「いえ/いや」の後に後文がないと不自然である。「いいえ」と「ううん」の使用を見ると「いいえ」と「ううん」使用状況がほぼ似ていることから、「いいえ」と「ううん」は、ほぼ同じ機能を持っていると思われる。一方、シンハラ語の「nae:/nehe(いいえ)」はあくまでも「何らの情報を否定する時」にだけ使用される、明確な否定応答である。「bae:/behe(できない)」は、「命令」又は「依頼」に対する否定応答であり、「epaa (いや)」は、許可の求めに対し、直接的に断る時に使われる。

シンハラ語の「ou (はい)」は、質問に対して肯定する場合のみに使用される、明確な肯定応答詞である。「haa (はい、良いよ)」「hari (オーケー)」は、「命令」又は「依頼」に対する肯定応答で、「hari (オーケー)」は、「命令」「依頼」以外に「話題転換」と「打ち切り」の場合にも使える。表3の⑬~⑰までの「物を渡す」「電話応答」「出席を取る」「呼びかけ」「注意喚起」は、いずれも「はい」の特殊な機能である。従って、シンハラ語の「ou (はい)」「haa (はい、良いよ)」などは、あくまでも「何らかの情報に対する応答」「質問に対する応答」として現れるとよい。シンハラ語の「ou」「haa」などの使用範囲が限られた様相を示しているのに比べると、日本語の「はい」の使用範囲の広さは特筆すべきものである。

今回は、日本語の肯定・否定応答とシンハラ語の肯定・否定応答の用法の特徴を中心に絞っているが、今後は、日本語教科書での日本語の肯定・否定応答の説明の不十分な点を整理し、更に応答の研究を続けていきたい。

謝辞

本研究のために調査に協力して下さった日本人とスリランカ人の方々、この研究を御指導下さった指導教官のダニエル・ロング先生に御礼を申し上げる。

参考文献

- ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ (2012) 「日本語とシンハラ語の応答表現の対照」『日本語研究』首都大学東京 32 号 pp.163 - 175
- 大島弘子 (2001) 「「ほら」の機能について」『日本語教育』108, 日本語教育学会 pp.34-41
- 北川千里 (1977) 「はい」と「ええ」『日本語教育』33, pp.65-72
- 富樫純一 (2002) 「『はい』と『うん』の関係をめぐって」定信利之編『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房, pp.127-157
- 富樫純一 (2006) 「否定応答表現「いえ」「いいえ」「いや」, 矢澤真人・橋本修 (編)『現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』ひつじ書房, pp.23-46
- 二宮理佳・金山泰子 (2005) 「「ええ」の機能についての一考察—「はい」との比較を通して—」ICU日本語教育研究2, 国際基督教大学日本語教育研究センター, pp.51-63
- 二宮理佳・金山泰子 (2006) 「「はい」「ええ」の使い分けに関する意識調査」ICU日本語教育研究3, 国際基督教大学日本語教育研究センター, pp.3-31
- 日向茂男 (1979) 「談話における「はい」と「ええ」の機能について」『国立国語研究所報告』65 号 pp.215-229
- Dissanayake, J.B. (1992) *Say it in Sinhala*, Lake House Printers & Publishers Ltd
- Fairbanks, G.H., J.W. Gair, and M.W.S. De Silva (1968a) *Colloquial Sinhalese (Sinhala), Part 1*. Ithaca, NY: South Asia Program, Cornell University
- Fairbanks, G.H., J.W. Gair, and M.W.S. De Silva (1968b) *Colloquial Sinhala, Part 2*. Ithaca, NY: South Asia Program, Cornell University
- Karunatilake, W. S. (1990) *Introduction to Spoken Sinhala*, Colombo: Gunasena Publishers

(Wirasingha Dilini Hasanthika・首都大学東京大学院博士後期課程)